

袈裟襷文銅鐸(神明遺跡出土)



指定区分	県指定重要文化財(考古資料)
読みかた	けさたすきもんどうたく(しんめいいせきしゅつど)
所在地	岡山市北区西花尻 岡山県古代吉備文化財センター
登録年月日	令和2年3月13日
解説	弥生時代中期後葉に作られたと考えられる扁平鈕(へんぺいちゅう)式古段階の銅鐸である。身部に4つの方形区画があり、四区袈裟襷文銅鐸と判断できる。鈕には流水文が施されているが、同様の特徴の発見例として全国4例目となる。身部内面下部に巡る内面突帯の摩滅状況から、鳴らして使用したことがわかる。土坑に鱒(ひれ)を立てた状態で出土しており、埋納状況が発掘調査で確認できた県内2例目としても貴重である。
アクセス方法	
公開状況	JR岡山駅(西口)から車で約20分/JR庭瀬駅から車で約10分
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(考古資料)
ぶんかざいめい (文化財名)	袈裟襷文銅鐸(神明遺跡出土)
よみかた	けさたすきもんどうたく(しんめいいせきしゅつど)
しょざいち (所在地)	岡山市北区西花尻 岡山県古代吉備文化財センター
とうろくしたひ (登録した日)	令和2年3月13日
せつめい	弥生時代中期に作られたと考えられる銅鐸(どうたく)です。4つの方形区画(ほうけいくかく)があり、紐(ひも)には流水文(りゅうすいもん)が描かれています。鳴らして使用していたことがわかり、埋納状況が発掘調査で確認できた、県内2例目としても貴重なものです。